

- 豊野 孝^{1,7}、高田 豊^{2,7}、荒井秋晴^{3,7}、稲永清敏^{4,7}、後藤哲哉^{5,7}、
西原達次^{6,7} 九歯大・¹口腔組織、²内科、³総合教育、⁴生理学、
⁵頭頸解析、⁶感染生物、⁷大学自己評価部会

大学における教育は大学の基本理念に基づいて行われており、大学全体での大学理念の周知が必要である。さらに、大学での教育成果を検証するためには、学内外の多面的な視点から検証を行う必要がある。そこで、本研究では歯学部学生、大学院生、卒業生および教員および本学卒業生の雇用主を対象として大学理念の周知度および大学教育の満足度のアンケート調査を行った。大学理念の周知度に関しては、教員の周知度が最も高く、卒業生が最も低いことが明らかになった。次に大学教育の満足度に関しては、歯学部学生の満足度が最も高く、卒業生が最も低いことが明らかになった。大学理念の周知度および大学教育の満足度の関係を単回帰分析で調べたところ、歯学部学生および卒業生は弱い正の関係が、大学院生は高い正の関係が認められた。これらの結果より、大学理念の周知度および大学教育の満足度において対象群において差が認められた。今後は本学理念の周知の徹底を図ると同時に、大学教育の満足度が向上するように教育内容および方法の改善に取り組む必要があると考えられた。

- 中原孝洋¹、西原達次²

¹九歯大・総合教育、²九歯大・感染生物

内田洋行製「作って教材 for Medical」システム一式を設置し、コンピュータ演習室をはじめ、学内ネットワークで利用できるよう構築を行い、6年次生卒業試験のうち1回（全2回実施）及び2年次生選択肢型共通試験を実施した。

初年度にも関わらず、テストを実施するシステムとしては、安定的に運用を開始することができた。

アンケートを実施したところ、ペーパーテストとのギャップに戸惑いがあることや、長時間に渡る試験では疲れが見られること、試験の振り返りのための紙出力の方法などに問題があり、解決するべき点は多い。

一方で、問題をPC向けに作っていくこと、プール問題を増やしていくこと、また小テストレベルで自学自習を進めるなど、国家試験を含めた履修達成度の確認のためのツールとして、利用できるものとする。